

26P-pm173

患者-薬剤師コミュニケーション教育の目標-金沢大学医学部 SP 研究会との連携

○清水 栄¹, 荒井 國三¹, 石崎 純子¹, 本間 隆之¹, 小泉 順二², 尾山 治², 西川 佳子³, 神田 哲雄⁴, 松川 泉⁵, 多田 昭博⁶(¹金沢大院薬,²金沢大病院,³金沢大SP研究会,⁴アカンサ薬局,⁵紫錦台薬局,⁶北陸大薬)

【目的】患者さんが薬剤師に求めているものは何か、どのようなコミュニケーションを望んでいるかを事前実習教育に当たって明確にするため、金沢大学医学部 SP 研究会と合同で研修会を行ったので報告する。

【方法】教員 5 名、薬剤師 2 名、医師 2 名、SP13 名が参加し、SP は「患者より薬剤師に求めるもの」、教員・薬剤師は「薬剤師-患者コミュニケーション教育の目標」というテーマについて、KJ 法を用いた SGD を行った後、2 つの SP グループと教員・薬剤師グループの発表と全体ディスカッションを行った。この SP 研究会は金沢大学薬学部 OSCE トライアルに参加している SP であり、薬剤師に対し高い関心を持っているグループである。

【結果】SP グループ①;印象(身なり、清潔感、笑顔)、態度(患者さんへの思いやり、共感してくれる、優しさ、親切)がベースとしてあり、専門的知識+傾聴(医師と患者との橋渡し、薬への疑問)や信頼(守秘義務、ホーム薬剤師)、人間性(出身県・趣味など話題の豊富さ)が必要。SP グループ②; SGD の全体を樹になぞらえ、根の部分は身だしなみ、一般人としての常識など、幹の部分はプロ意識、医師との連携など、枝・葉として専門技術・知識の他に患者の悩みを引き出して欲しい、病を分かち合っていける信頼される人であり、心を持つことが必要。教員+薬剤師グループ; コミュニケーションの取り辛い患者さんも居ることを前提に様々な面接技術、患者さんの要望に気づくこと、プライバシーへの配慮、他の医療職種との連携、薬以外の知識も必要。

【まとめ】患者さん・医師等との信頼関係を構築し、双方向コミュニケーション展開が望まれ、薬剤師に求められるコミュニケーション能力が明らかとなった。